

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-68	高等学校	国語科	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	論国712	高等学校 標準論理国語		

1. 編修の基本方針

1. 近現代のすぐれた論理的な文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 現代社会における問題を具体的に扱った教材を意識的に採録して、人間・環境・社会などさまざまな課題に向き合う態度を養うことができるように配慮した。
5. 我が国の言語文化の伝統を深く理解したうえで、言葉によつて的確に理解し、適切に交流する能力を高く、真に国際的な人間形成を促すことを期した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
理解編 I	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のはたらきに理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにして、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した(第1号)。 ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによつて、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した(第1号)。 	<p>p. 30～39</p> <p>p. 78～86 p. 96～104</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を肯定するとともに、多様な価値観について述べた題材を採録し、異なる立場からの意見を尊重する態度を身に付けられるように配慮した(第2号)。 ・社会生活を送ることについて考察した題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深められるようにした(第2号)。 ・生徒どうしの会話を含む教材を用意し、生徒自らが主体性を発揮して学習に取り組むことを期した(第2号)。 	<p>p. 12～19</p> <p>p. 88～95</p> <p>p. 110～114</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・近代社会の秩序や理念について述べた題材に加えて、科学技術の発展、消費行動のあり方など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した(第3号)。 ・学校生活など、生徒にとっての実社会と深く関わる題材を積極的に採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした(第3号)。 	<p>p. 20～28 p. 70～77</p> <p>p. 106～109</p> <p>p. 110～114</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、自然、環境といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した(第4号)。 	<p>p. 12～19</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・言語論・比較文化論などを積極的に採録するなどして、我が国の言語文化に対する関心を喚起するとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。 	<p>p. 30～39 p. 40～48 p. 50～59 p. 60～68</p>
理解編Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・言葉のはたらきに理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにして、社会生活に必要な言葉の知識や技能を身に付けることを目指した（第1号）。 ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。 	<p>p. 226～231 p. 232～238 p. 116～125 p. 126～138 p. 182～191 p. 192～202</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を肯定するとともに、多様な価値観について述べた題材を採録し、異なる立場からの意見を尊重する態度を身に付けられるように配慮した（第2号）。 	<p>p. 148～156 p. 167～180</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・近代社会の秩序や理念について述べた題材に加えて、情報化の進展、科学技術の発展など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 ・現代社会における協働や相互扶助について考察した題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深められるようにした（第3号）。 	<p>p. 140～147 p. 167～180 p. 204～213 p. 214～224 p. 204～213</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・生命、自然、環境といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。 	<p>p. 158～166 p. 167～180</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・言語論・比較文化論を採録することにより、我が国の言語文化に対する関心を喚起するとともに、他国の文化を尊重する態度を養うことができるよう配慮した（第5号）。 	<p>p. 148～156</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・実社会や学術的な学習の基礎となる知識や教養を身に付け、自分の考えや事柄を国語で適切に伝える能力を伸ばせるようにした（第1号）。 ・情報を収集したり、情報の妥当性や信頼性を吟味したりといった、現代の情報化社会において重要とされる能力を高めることを目指した（第1号）。 	<p>p. 240～256 p. 258～276 p. 240～243 p. 244～247 p. 258～263 p. 264～267</p>
表現編	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な学習テーマと事例を示すことで、生徒が主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。 	<p>p. 240～256 p. 258～276</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発展・情報化の進展など、現代の諸問題を取り上げた題材を採録し、生徒が社会の形成と発展について考察を深められるよう配慮した（第3号）。 	<p>p. 258～276</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化問題という、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるようにした。（第4号）。 	<p>p. 240～256</p>
資料編・見返・口絵	<ul style="list-style-type: none"> ・表現に関する実用的な資料を採録し、実生活や学術的な学習の基礎となる知識や教養を身に付けることができるようにした（第1号）。 ・目的に合わせて機器を用いたり、情報を収集して適切に扱ったりといった、現代の情報化社会において重要とされる能力を高めることを目指した（第1号）。 	<p>巻頭口絵 p. 282 283 後見返</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・「慣用表現一覧」および採録した題材の参考写真等を用意し、幅広い知識と教養を身に付けるとともに、我が国や他国の言語文化に対する興味・関心を喚起できるよう配慮した（第1号・第5号）。 ・「読書のしるべ」を設定して、読書の幅を広げることができるようにした（第1号）。 	<p>返 p. 284～288</p> <p>p. 278～281</p>
<p>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ・第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、理解編Ⅰ、Ⅱの各教材の最後に「学習の手引き」「活動の手引き」「言葉の手引き」として課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。 ・書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。 		

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 担当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
103-68	高等学校	国語科	論理国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
183第一	論国712	高等学校 標準論理国語		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・「現代の国語」および「言語文化」で育成された資質・能力をさらに推し進め、実社会や学術的な学習に必要な国語の知識や技能を効果的に身につけるため、全体を「理解編」と「表現編」で構成し、論理的・批判的な思考力・判断力を育成するための学びと、表現力を育成するための学びとが、それぞれ系統的に行えるように教材を配置した。
- ・「理解編」は、教育現場の意見・要望を尊重し、学習指導の実態に即応できるよう考慮して、全体を二部で構成し、評論、および、実用的な文章を取り上げた。評論はテーマを基本とした単元構成にして、教材どうしが有機的な繋がりをもって学習できることを意図した。
- ・「表現編」は、「A 書くこと」に関わる教材を取り上げ、「論理国語」の目標に掲げられている、「他者との関わりの中で伝え合う力を高め」るための学びを実現することを意図した。
- ・「B 読むこと」の教材選定にあたっては、生徒の発達段階や「現代の国語」「言語文化」との接続にも配慮しつつ、高校生が身につけておくべき幅広い知識を提供し得る作品をさまざまな分野から厳選し、人間や社会に対する視野や考えがさらに広がり深まるように教材を配列した。
- ・単元の扉に、学習によって身につけるべき国語の技能を「学習目標」として示し、学習指導要領が目ざす[知識及び技能]と[思考力, 判断力, 表現力等]を、見通しを持って学ぶことができるようにした。
- ・作品の冒頭に、それぞれの教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。
→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・「言葉の手引き」を設定して、「B 読むこと」の内容と関連づけながら漢字・語句・表現・修辞等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・情報と情報との関係については、「B 読むこと」の内容と関連づけながら「学習の手引き」で理解を深めるとともに、「論理研究」という単元を設け、論理展開の方法の基本となる推論について基礎的な知識を得られるようにした。
- ・巻末に「資料編」、巻頭と巻末に「口絵」を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。
- ・作品ごとに作者解説を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図るとともに、評論については巻末に「読書のしるべ」を設けて各教材の作者の著書を紹介し、読書の幅を広げることができるように意図した。

③[思考力, 判断力, 表現力等]への対応

- ・「A 書くこと」に関しては、「言語活動」を主体として教材を設定し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、自分の考えを広げて伝え合う能力を育成することを旨とした。教材として取り上げる項目は、「言語活動例」に示された内容に即して選定した。
- ・「B 読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
 - * 「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所に、内容理解を確認する目的で示した。
 - * 「学習の手引き」は、文章全体の構成の把握、構成を支えている論理（各段落のはたらき、段落相互の関係、論展開など）の把握、「学習のねらい」に沿った内容の解釈および評価という、基本的に三つの事柄を行うことを主旨として設定した。
 - * 「活動の手引き」は、本文を学習して得た知識や、本文に関連する事柄などをもとにして、文章を書いて発表したり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる「言語活動」を行うことを主旨として設定した。
- ・「活動の手引き」とは別に、「B 読むこと」の「言語活動」として、関連するテーマについて書かれた異なる題材の二つの文章教材を用意し、それぞれの書き手の意図を捉えながら必要な情報を関係づけ、多面的・多角的な視点から自分の考えを深めることができるようにした。
→p. 50「情けは人の……」、p. 60「犬も歩けば棒に当たる」
p. 158「クマを変えてしまう人間」、p. 167「カブトムシから考える里山と物質循環」
- ・実用的な文章は、実用と活用に重点を置いて、「言語活動」を主体とした課題設定を行った。

2. 対照表

図書の構成・内容			学習指導要領の内容						該当箇所	配当時数			
			知識及び技能			思考力・表現力・判断力等				書くこと	読むこと	計	
章	単元	教材	(1)	(2)	(3)	書くこと (1)	書くこと (2)	読むこと (1)	読むこと (2)				
理解編Ⅰ	新しい発見	進化が導き出した答え	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・エ・カ	ア	p.12-19	1	3	4
		新しい地球観	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・エ	ア・イ・ウ・エ・カ	ア・オ	p.20-28	1	3	4
	言葉と文化	数え方で磨く日本語	ア・イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・エ	ア・ウ・エ・カ	ア・オ	p.30-39	1	4	5
		名所絵はがきの東西	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・イ	ア・イ・ウ・エ・カ	ア	p.40-48	1	4	5
	生活の中の表現 読み比べ	情けは人の……	イ・エ	ア・イ				ア・ウ・エ・カ	ア・エ	p.50-59		3	3
		犬も歩けば棒に当たる	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	エ	ア・ウ・エ・カ	ア・エ	p.60-68	1	3	4
	人間と文化	バラと通貨はどう違う？	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア	p.70-77	1	4	5
		ヒトはなぜヒトになったか	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・イ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.78-86	1	4	5
	自己と社会	共同性の幻想	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.88-95	1	4	5
		鏡としての他者	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・エ・カ	ア・イ	p.96-104	1	4	5
実用文	法に関わる文章を読み比べる		ア・イ		ウ・オ	ア	イ・エ・オ	ア	p.106-109	1	3	4	
	ボランティアへの参加を伝えるメールの文章を検討する		ア・イ		ウ・エ・オ・カ	ア	エ・オ	ア	p.110-114	1	3	4	
理解編Ⅱ	新しい視点	新しい博物学を	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・イ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.116-125	1	4	5
		哲学的思考とは何か	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・イ	ア・ウ・エ・カ	ア・ウ	p.126-138	1	4	5
	人間と社会	SNSと意見の分極化	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・エ・カ	ア・イ	p.140-147	1	4	5
		コミュニケーションの文化	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・イ	ア・ウ・エ・カ	ア・イ	p.148-156	1	4	5
	生活と自然 読み比べ	クマを変えてしまう人間	イ・エ	ア・イ				ア・ウ・エ・カ	ア・イ・エ	p.158-166		3	3
		カブトムシから考える里山と物質循環	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア・イ・エ	p.167-180	1	4	5
	生への思索	経験の教えについて	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・エ	ア・ウ・エ・カ	ア・オ	p.182-191	1	4	5
		僕らの時代のメディア・リテラシー	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・ウ	ア・ウ・エ・カ	ア・イ	p.192-202	1	4	5
	現代と社会	支え合うことの意味	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア	ア・ウ・エ・カ	ア・イ	p.204-213	1	4	5
		科学技術は暴走しているのか	イ・エ	ア・イ		ウ・エ・オ	ア・イ	ア・ウ・エ・カ	ア・イ	p.214-224	1	4	5
論理研究 推論	推論とは何か		ウ		ウ・オ	ア	ア・ウ	ア	p.226-231	1	2	3	
	帰納法のワナー一般化に対する疑問		ウ		ウ・オ	ア	ア・ウ	ア	p.232-238	2	2	4	
表現編	レポートを書く	資料を集めて情報を整理する				ア・イ	ア			p.240-243	4		4
		得られた情報を分析して報告する テーマを絞り込む	ウ・エ			イ・ウ・エ	イ			p.244-247	4		4
		構成を考えてレポートを書く	ウ・エ			ウ・オ	イ・エ			p.248-253	4		4
		書いたレポートを評価・分析して修正する	ウ・エ			カ	イ・ウ			p.254-256	4		4
	小論文を書く	課題の文章を読んで情報を整理する	ウ・エ			ア	ア			p.258-263	4		4
		得られた情報を分析して自分の考えを決める	ウ・エ			ア・イ・ウ	イ			p.264-267	4		4
		構成を考えて小論文を書く	ウ・エ			ウ・エ・オ	イ・エ			p.268-271	4		4
	書いた小論文を評価・分析して修正する	ウ・エ			カ	イ・ウ			p.272-276	4		4	
	読書のしるべ			ア					p.278-281				
										55	85	140	